キャリアパス

～私たちの多彩なワークスタイル～

行政事務

所属　**総務部**
市町村行政課　課長

平成5年度採用

これまでのキャリアパス

県南

平成５年度～　**東白川農商高等学校（主事）**

・農業科が管理する農場の会計、入試や授業料納入等の学務を担当。
・着任１年目に第１子を出産し、初めての財務会計事務に苦労しながらも、先生方の温かさを実感しました。

平成７年度～　**県南社会福祉事務所福祉課（社会福祉主事）**

・知的障がい者のケースワーカーとして、障がいの判定や施設入退所等、知的障がいの方が福祉制度を活用するための相談業務を担当。
・第２子、第３子を出産。知的障がいのある方を理解する上で、子育ての実体験が役立ちました。

県庁

平成１１年度～　**総務部職員厚生課年金係（副主査→主査）**

・主に県職員ＯＢの方々の年金・恩給の支給手続き等を担当。
・年金制度の奥深さを知り、社会保障制度に興味を持ちました。長男が小学校に入学し、子どもたちの毎日の送迎先が学童保育と保育園の２カ所に増加。第４子、第５子を出産して７人家族に。

県北

平成１７年度～　**県北地方振興局企画商工部市町村支援課（主査）**

・県北地方の市町村の行財政、市町村合併及び選挙の管理執行を担当。
・平成の大合併で管内市町村数が１７から８に。合併前後の自治体支援や国・県選挙の仕事は、行政マンとして大変勉強になりました。

平成２１年度～　**福島県立医科大学事務局法人経営室（派遣）（主査→主任主査）**

・医大の組織・経営に関することや、２つの県立病院を統合し医大の附属施設とした会津医療センターの開設準備を担当。
・医大の視点で県と調整・連携しながら、会津に新たな組織を作り上げていく仕事を通じて心身共に鍛えられました。

県庁

平成２４年度～　**保健福祉部子育て支援課（主任主査）**

・子育てや婚活の支援、屋内外の子どもの遊び場づくりなどを担当。
・東日本大震災後の子育て家庭の放射線不安と向き合いながら、子どもの遊びの充実に取り組みました。５人の子どもたちは、大学生、高校生、中学生、小学生に。

県中

平成２６年度～　**あさか開成高等学校（事務長→主幹兼事務長）**

・生徒・教職員に関する事務や施設・備品の管理などの学校事務を総括。
・先生方と連絡調整し、生徒やＰＴＡの協力を得ながら、校舎や体育館・格技場の耐震改修工事、学校敷地内の除染工事、校舎へのエアコン設置工事を進めました。縁の下の力持ちとして、生徒が学びやすい環境づくりに尽力しました。

県庁

平成２９年度～　**子ども未来局児童家庭課（主幹兼副課長）**

・様々な事情により家庭での養育が困難な子どもの福祉、ひとり親家庭等の福祉、女性の保護や自立支援、子どもの医療費や児童扶養手当等を担当。
・子どもの人権を守るため最前線で対応している児童相談所の体制強化を中心に、児童福祉の様々な取組に挑戦しました。共に苦労した職員は、今も大切な仲間です。

令和２年度～　**生活環境部消費生活課（課長）**

・消費者教育・啓発、不適正な消費者契約への対応、食の安全に関する取組、消費生活センターの総括。
・様々な消費者トラブルの相談に的確に対応する消費生活相談員の仕事ぶりに背中を押されて、消費者の見守りネットワークづくりやコロナ禍での風評対策のオンラインツアーなど新たな取組を始めました。

令和４年度～　**総務部市町村行政課（課長）（選挙管理委員会事務局(次長)併任）**

・市町村の人事管理や行政運営全般への助言・支援、町村の職員採用支援、被災市町村への人的支援、選挙管理委員会事務の総括。
・市町村からの若き実務研修生と受け入れる県職員が切磋琢磨しながら仕事を進める、活気のある職場です。

印象に残っている経験・エピソード

福島県立医科大学への派遣、菊地臣一理事長兼学長（当時）との出会いは、県庁を外から見つめ直し、県職員としてどのように行動すべきか考える転機になりました。

以後、プロフェッショナルとしてどうやったらできるか考え、行動することの大切さを身をもって示してくださった恩師の教えを胸に、仕事に取り組んでいます。

「福島県職員」の魅力・やりがい

これまで様々な仕事を経験する中で、多様な職種の関係者や民間団体の方々と出会うことができました。立場は異なっていても、関係者が同じ目的に向かって共に汗を流し、形にできたときの達成感は格別です。

違う分野の仕事であってもどこかでつながっていて、以前携わった仕事の経験が後で活きることも面白いところです。

（令和５年３月現在）